

AMBITION

北海道大学病院 臨床研修センター Resident NEWS letter 2020 season2 (20) 2020.09.01発行

～平野センター長より、コロナ禍で戦う医療人の方々へメッセージをいただきました～

コロナがもたらすもの

副病院長・臨床研修センター長 平野 聡



今を席卷するCOVID-19は、認知されて半年もたたない間に世界で1,000万人に感染し、52万人が命を落としました。77億の世界人口を考えればごくわずかにみえますが、これほど短期間に東京都民全員が感染し、なおかつ函館市の人口の2倍の数が死亡したと考えると、誰もがいくばくかの恐怖心を抱いて当然と思います。

「#LightItBlue」キャンペーンで世界中が青にライトアップされ、医療従事者への感謝のメッセージが伝えられましたが、同時にそれは、忍び寄る恐怖にさいなまれる一般市民からの「なんとかこの悲惨な状況を打破してくれ(るよね)！」という悲痛な叫びにも聞こえます。つまり人類の運命の鍵を握る医療やその担い手たる医療人が、かつてない強さで社会からの信託を受けているのです。

私たちはこの重い要請を受けとめるとき、最近、感染拡大防止のためのスローガンとして言われる「利他」という精神を改めて想起すべきと思います。「自利利他(じりりた)」という仏教の教えにも通じますが、いかなる環境・状況にあっても“利益(幸福)を他人に与えることが私たち(医療者)の使命であり、自らの利益(幸福)はその結果としてある”と説きます。突如、突きつけられたこの社会的信託は、私たち医療者の本懐というべき精神を、極めて鮮明に認識させてくれたように思います。

私たちが働く巨大な病院組織には多くの部署が存在し、それぞれが利益を求めてセクショナリズムに陥りがちです。ところが、この数ヶ月、COVID-19対策としての院内体制構築の中で、病院全体が「利他」実現のために結束するという素晴らしい経験をしています。非常事態の中で、奇しくも巨大組織の成熟にはもってこいの機会となっていることをポジティブに受け止めることもできます。

とはいえ今後、COVID-19が我々にもたらす影響は計り知れません。ここで、齢94歳のエリザベス女王が英国国民に発したメッセージは私たちにも勇気を与えてくれるものでしたので、当院用アレンジして締めくくりとします。

「この先何年かして、この難題にいかに対応したかを誰もが誇りに思うことができるようになり、また、後世の人たちにより、この時代の北大病院は誰にも負けない強さを持っていたと語られることを願っています。」

鹿児島地域医療研修レポート

平成30年プログラムAコース 山崎 雅久 先生



私はこの度、地域医療研修として鹿児島県枕崎市の枕崎市立病院、鹿児島県西之表市の種子島医療センターで2か月間研修を行わせていただきました。私が大学で研修を行っていた際に、2年目研修医の方から勧められ、九州に行ったことがなかった私は是非一度行ってみたいと思い志望しました。

枕崎市立病院は薩摩半島の南端に位置しており、鹿児島市内から車で約1時間の距離に位置しています。病床数は55床で、内科全般診療を行っていました。プライマリケアの提供や、地域包括ケアシステムの構築、訪問診療など地域密着型の診療を体感することができました。休日には市内観光や、温泉巡り、県外へ羽を伸ばしたりなど充実した日々を過ごさせていただきました。

2か月目の種子島医療センターでは、内科および救急外来を中心に研修させていただきました。大学病院などの中核病院では、研修医が自分の判断で診療を行う機会はあまり多くありません。種子島では一戦力として研修医を扱い、その分大変な事も多々ありましたが、とてもいい経験となりました。休日はサーフィンやダイビング、種子島宇宙センターや、屋久島登山など行うことができました。

2か月間、鹿児島研修で得た経験や出会いは忘れることのできない貴重な経験となりました。今後3年目以降、このような機会を得ることは中々難しいと思います。是非鹿児島研修を選択する事をお勧めします。



★今年度はコロナウイルスの影響により、鹿児島地域医療研修はすべて中止となってしまいました。予定していた先生方のショックはかなり大きかったことと思います。来年度の再開を祈りつつ、1年目研修医向けに募集を開始しています。外来研修も経験できますので、興味のある方は、躊躇せず一歩踏み出してみましょ！

EPOC Day 開催しました



8月17日(月)に「EPOC Day」を初開催しました。日頃の研修を振り返り、修了要件に照らし合わせて、自分の研修の進捗状況を確認する大事な時間です。今年度は、1年目研修医と2年目研修医とで修了要件が異なることから、2部に分けての実施となりました。

2年目研修医は、小野澤先生による「症例レポートの書き方講座」に続き、12月末の修了(仮)判定に向け、レポートの提出状況や必修項目の達成度を各自確認しました。その後、達成度に応じて、センター教員との面談を行い、修了までの見通しを共有しました。必修がたくさん残っている研修医、レポートUPがゼロの研修医、ローテーションを見直す研修医……普段忙しくてスルーしていた部分もきっちり確認！未入力のまま放置していた自己評価も、この時間を使って完了。今後の地域医療研修での経験に期待を残している項目もありますが、おおむね順調に研修が進んでいる様子の2年目研修医でした。

一方、1年目研修医は。。。医師臨床研修制度が新しくなり、EPOC2が導入されたばかりで、手探り感が残るものの、院内の7名については、症例登録も進み自己評価の入力も順調で、問題なし！指導医の先生方から、カルテの考察の記載内容など細かい点も指導していただいている様子がEPOC2上で確認できました。研修医の皆さん、引き続きコンスタントに入力し、より充実した研修にしていましょ！

2年目研修医のレポート提出締切は12月18日(金)となっています！



次号もお楽しみに♪

ご意見・お問い合わせ

北海道大学病院 臨床研修センター
〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目
TEL : 011-706-7045
MAIL : sotsugo@med.hokudai.ac.jp